

栃木県中学校長会 会報

国際社会人としての 日本人の育成を



栃木県中学校長会副会長
喜連川町立上江川中学校長
角海忠一

宇都宮の空襲 一 「澄み渡る池の面にもにてさみし 今日を送りに吾れ何んとして」

教職員として初めて赴任した那須郡須賀川村須佐木尋常高等小学校。勤務は青年学校も兼務。

同校より出征の先輩や間もなく戦死。私も召集令状を手にし、かわいい教え子や皆さん方の激励と万才の歡呼に送られ、感謝と懐しい思い出を一杯にしながら、木炭バスにゆられて唐松峠を通り黒羽駅に向う。有名を禅寺雲巖寺の住職植木老師より依頼された林古監和尚が、代表して同乗し記念に歌を残してほしいと云うので、駅近くやつと形にできたのが、はずかしいこの歌である。

日本防衛のために、米英鬼畜を倒すために、命を捨てる事は当然と、胸さわきも動揺もない自分自身の静けさといふかりながら歌にした。

月日と共に戦雲益々暗く、入隊した宇都宮東部三十六部隊機関銃中隊大隊砲分隊より幹部候補生を志願し、甲種合格だが、津田沼予備士官学校も爆撃され原隊教育の止むなきに至った。その頃小雨の降る暗いさみしい晩私は同僚と歩哨に立っていた。急に重苦しい爆音が連続して聞こえる。警戒警報なし。勿論空襲警報もない。間もなく宮の上空は提灯を数きつめたようになる。三十六部隊は全く静かである。同僚に話し思い切って私が空襲警報を連呼する事にした。十数回連呼した。空襲警報が発令された。その内部隊わきの道路は泣きわめく人と荷車の波に変わった。息苦しい夜も明け、私は兵五六名をつれ市内を巡回し、驚きは筆

舌に表現できない。正にかい滅状態。……

そして陛下のお言葉もあり終戦の日を迎えた。

二十一世紀への教育…衣食住にも困りはた戦後。しかし米国の核の傘下に守られたとは云い復興はめざましく、正に経済大国月本となった。その大きな原動力は教育であり、バイタリティーに富む労働力であると確信する。

資源らしい資源のない日本は貿易優先も止むを得ないが、大東亜戦争の発火点の一つは、対日輸出禁止、とりわけ経済封鎖最後の一撃が石油禁輸であった事に想いをはせ、連帯と協調を基本に、平和主義に徹し、愛国心に立脚した国際社会人としての育成を、中学教育により期待し、具体的で強力な推進が望まれる。

現在も世界的な問題として、資本主義と共産主義・貿易経済問題・先進国と発展途上国・南北問題・中東南アフリカ問題・カンボジア・ポーランドイスラエル問題・限定核戦争・食糧問題等々大きな課題が山積している。

国連の活躍も成果も大きいですが、曲がり角に立たされている現状である。

日本に関する領土問題としても、過去に於て日ソ不可侵条約がありながら、その約束を破り満州に侵入したり、大東亜戦に於ては北方四島を占有し、今だに未解決である事も事実である。

指導要領も改訂され、エコノミックアニマルに通ずる知育偏重でなく、豊かな人間性の育成に焦点をあてた人間教育を重視する今年度は第一年次である。

日本は雑多な考えも多いが、世界に通ずる現実的な防衛努力も必要であると思われる。

教職四十一年目にあたり、会報投稿の機会を利用し、改めて以上の観点から、次の問題を提起したい。是非ご批判を願う。

1. 抽象的でなく行動目標のある国際社会人としての日本人の育成を図る指導系列の検討。
2. 地歴の一部統合とその関連々係に立った見方考え方を育てる時間の設定。
3. 道徳授業のまとめに、教育公務員としての信念を持った発言の必要性。それも生徒の考えを尊重し、押えずに。
4. 英語を日常会話に役立てる毎日の指導法。
5. 国旗掲揚・降納時にレコード君が代放送。全職員児童生徒起立注目し、朝の決意と帰りの反省。国民意識の高揚。

ひごる思うこと

地区校長会長から

自問自答

佐野市立西中学校

尾花 悟

明治以来100年の間、日本の教育は戦後もふくめて外国に追いつくことが中心課題であったと思いますが、今はそうでなくなっており、いろいろな面で日本が世界のリーダーと言えるところまで進んできているわけです。今回改訂された、中学校で実施されている新しい教育課程の中に盛られている人間性の問題も充実の問題もその意味から考えることが大切であろうと思います。それぞれの学校での活動の主体は、何といても生徒であり、生徒が意欲的に学習や活動にとり組み、またそれぞれの教師が主体的に創意工夫をこらした積極的な指導によって、教師・生徒ともに安定感をもつことの中に、教育のねらい達成へのみちすじが生まれるであろうと考えます。今、あらためて、家庭・地域社会・学校が一体となつて人間づくりの重要性が問われている時であるだけに、教師自身の意識が問題となります。中学の場合ややもすると自分の教科だけにとらわれて比較的閉鎖的傾向の強い教室での生徒との生活になつていように見られます。従つていつの間にかひとりよがりになりがちで、きびしい社会を正視する眼を失い、所謂世間知らずの教師になつていようと思います。人間性豊かな生徒を育てる営みをする教師は、まず人間としてまた常識のある社会人として生きられる努力をするよう指導することが大切で、それには校長自身が人間性を身につける努力を一段とする必要があるのではないのでしょうか。お互に、毎日の学校生活の場で如何にこのことに努力しているか自問自答してみたいものです。

広い視野、柔軟な思考

田沼町立西中学校

福地 政 男

私はかつて北はハルビン（中国東北部の都市）から、南はジャワ、スマトラの海域まで行ったことがある。そこで、次のような経験をした。

1. 中国では、お客に行った時、出されたお茶請け。たとえば南瓜の種を炒めたもの、西瓜の種もよく出される——それを歯で割って中味を食う。その時、殻をプツッと吹き飛ばす。部屋中に吹き散らすのが礼儀なのだといふのである。「盛大にご馳走になりました」という気持を表すのだといふ。
2. 朝鮮では、他家で食事をよばれる時、出された飯（サバリと呼ばれる丼に盛切り飯）を、全部食べてしまつてはいけぬのである。少し残すのが礼儀なのだといふのである。「大変おいしいので腹いっぱいよばれました。もうこれ以上食べられません」という意味を茅わしているのだといふ。
3. 赤道直下のシンガポールで、厚い毛糸の靴下を履いているヤツ（白人）が居るのである。毛糸の靴下で、地面からの熱を遮断しているのである。毛糸は、吸湿・通気性を兼ね備えた断熱材である。「もはや、従来の延長線上で考えても解決を見ない」と言われる今日、広い視野、柔軟な思考「発想の転換」が、必要であろう。

成年に往ぬ

野木町立野木中学校

碓井 青 史

英語随想

小山市立美田中学校

川津 敬 介

昨年に続いて秋の市民講座の英会話の講師を勤めた。6週間、週2回、1回2時間。昨年の外人講師はハワイの三世で筑波大学院で日本の古典文学を勉強中の女性だった。テキストには一般的な海外旅行の手引きを使い、きまり文句やスライドなどを使つての興味本位のもので実力は目立たなかつたが今年の講師は白鷗短大のアメリカ人で、内容は易しいが組織的にできている会話教本を使つたので実力がはつきり表れた。受講生は18才から60才までの社会人で高校卒業程度の35名で、大学生も3名ほどいた。

生の英語に慣れていないから聞き取りに苦労したのは私も同様だったが、質問に対する答えが全く文法を無視したものが多く、講師は、わかればいい、と言ってくれたが、途中脱落者も10名いて英語教育の欠陥を見たような気がした。

特別動詞と一般動詞の区別、単数と複数を使いわけ、時制の変化、変動態や不定詞など中学1・2年の内容がわかっていない者が多く、よく言われるように、普通の会話は中学英語で充分であるのに勉強の仕方や教え方に問題があると思う。まして週3時間の英語では消化不良のままで、いつまでたつても役に立つわけにはいかないだろう。

そこで思いきつて中学2年までの教科書を3年間で教え、市単位ぐらいで外人教師を1名雇つて週1回ほど中学校を回つて、興味のもてる授業をすると同時に教師の質の向上や国際理解に役立てたらどんなものだろう。その為には「ゆとりの時間」を使う。できない子供をほつたらかしくして「ゆとりの時間」なんて意味がない。

定年後は塾でも開いて落ちこぼされ生徒の救済にあたるか。繁盛疑いなしだろう。(56年11月)

月並みな表現だが「光陰矢の如し」を実感している。教職41年(軍歴4年が入るので実質は37年だが)校長になってからでも14年が、いま終わろうとしている。この間、いったいどれだけのことをしただろうか、と時々思ったりするのは、あながち私だけではないようである。

校長になつた当座は、子どもたちから離れた存在になるということが一番心配であつた。校長5年目のある日、中2の一女生徒(少し知恵遅れではあつたが)から「校長先生は、先生の試験が受からなかつたので、校長になつたのですか」と言われて、大笑いしながらも、内心ぎくりとしたことがある。

20年ほどいたA町からB市へ転勤になつてしばらくしたころ、A町の教育長さんから「うちの町には君の爪跡がいっぱい残っているぞ」と言われ「悪い跡の方が多いでしょうけれど」といったら「悪くても何でも、爪跡の残る方がいいさ」と励まされた。校長になつて、形よりも、子どもに何か残したい、といつも念じてきたつもりだが、はたしてどうであつたらう。

最近、生徒の非行が世論をにぎわしているが、幸い、私の学校では、今のところその心配は全くない。しかし、同級生ともよく話すことだが、このままでは日本の教育はどうなるのだろう、と思つたりする。校内暴力の問題など、原因は複雑だとしても「教師の構え」で半分は防げるのではないだろうか。また、最近の教師はものを言わなくなつた、という感じも強い。意見がないのではなく、唇に秋風の寒さを感じまいとしているのだろうか。校長会を始め、いろいろの会合をとおしてそんな気がしてならない。

本年度の始めに「力まず、かといって脱力せず、平常心でいこう」と心に誓つてはみたが、「先生……ですね」と言われて、無表情でいられたかどうか、内心忸怩(じくじ)たるものがある。

成年を迎えて、教育界から「往ぬる」わが身にとって、この冬の寒さはこたえることであろう。

期 待

大田原市立大田原中学校

船 山 三 男

激動する社会情勢の中で、中学校教育が大きく飛躍する時がやってきた。この時こそ教師は教育に燃やす情熱と、生先への愛情を、力強く活動する教師としての誇りを持つことが大切である。

いま、国際的視野に立って、知・徳・体の調和のとれた、豊かな人間性をめざした、中学校教育の創造こそ期待される場所である。如何に進めるかを求めて、英知をしぼり、その実現につとめるのが急務である。

戦後35年の歳月は流れ、教育の内容も新しい時代に合った教育課程がくまれ、質的転換がせまられ、新教育課程の実践に全力を傾注するときである。こんにちの社会は教育に対して、多くの期待をもつてのぞんでいる。この厳しい批判をどう教育の場に実践するかは、今後の課題である。

民主主義の精神に則り、教育がおし進められてきた中で、自由だ、権利だと主張した反面、子どもに、我侭な心をうえつけたり、権利尊重から義務の履行がうとんじられ、軌道にはずれた行為が多くなりつつある。困苦欠乏に耐えた時代から、高度成長の波にのって、生活に潤を生じて、物質文明の発達と共に、生活水準は向上し、物の豊富さは、使い捨て時代をつくり、消費は美德にまでしあがったことを思うとき、高度成長の一大ブームに、物の有難さを忘れ、大切にすべき心まで失った感があった。精神的面の思いやりをどう取りかえすか反省させられる。省エネも大切なことだが、人々の心に空洞をつくりたくないものである。人間味が薄れたドライ人間を育ててはなるまい。ここ数年来、心を忘れ、物中心の社会的風潮を正し、子どもの人格形成に大きな役割を果たしてきた学校・家庭・社会の教育力を増強し、心のふれ合いのある教育を進めて、相互理解と信頼関係を深め、それぞれの持つ教育機能を高め、三位一体の態勢をつくりあげ、豊かな人間性を育て、世界から信頼される資質や能力をそなえた、国際的視野に立った、中学校教育に期待をしたい。

充実した学習指導を

鳥山町立鳥山中学校

倭 文 威 夫

私は、充実した授業が日々展開されることを願っている。幸い本校が文部省より昭和55・56年の2か年間、中学校機器利用英語教育研究学校の指定を受け、英語科を核として全教科で学習指導の研究に取り組んできた。その研究の過程をふり返ってみて重要と思われることを挙げれば

1. 教材を精選する

思考なき学習は学習とはいえない。十分に思考することによって学習の重要事項が定着する。そうするためには思い切って教材を精選する必要がある。このことは、ゆとりと充実にもつながる学習指導の基本姿勢であろう。

2. 学習のねらいを明確に

学習がどのような課題解決に迫られているか。生徒にそのねらいを明確につかませ、常に問題をもって学習にのぞむ姿勢が極めて大切である。したがって、学習課題の内容や、設定の問題は教師にとって重要な課題となり得る。

3. 学習のし方の指導を

目標に到達するにはどのように進めばよいのか。課題解決のためにはどのような学習過程をたどればよいのか。つまり、学習者が能動的に歩いて進むルールをどのように敷いていけばよいのかということになる。そのルールの敷き方をどのように指導し工夫させればよいのかを常に考えて授業にのぞむ教師であってほしい。

4. 教育機器の活用を

機器の特性をふまへ、授業の流れの中に明確に位置づけることが大切である。偶発的、単発的利用から、統合的、組織的利用にまで高められることを期待する。

5. 学習訓練を

前述のことからどうしても常日頃のしつけなどを含め学習方法の訓練が必須条件となってくる。

教育 随 想

鹿沼市立西中学校

伊 藤 武 仁

学校をとりまく木々も日ごと赤味を増し、黒木を背景とした雑木林の色どりはひときわ映えて、自然の美しさが手近かなものとして楽しめる毎日である。校地総面積54510m² 校舎10668m² 校底19319m² 職員総数48名 976名の生徒が教育活動を展開している。この新天地に来て10年新しい統合西中としての歴史を刻みながら早や3代の校長の経営である。統合を乗りこえたにしようという意気込みで創造の毎日である。孟母三遷の教えのとおり、先づ環境美化を手はじめとして年々歳々施設・設備の充実を図り工夫をこらして調和と統一のとれた教育内容の展開を志して今日に至る。

初代校長のルールは苦勞の中から創造を生みだしそれをたすけてPTAの善意の活動が稔りあるものを生み出して二代三代と誇りある伝統にまで変容しながら生々として継承されている。

目を転じて現今の世相・社会状況・世界の動き何か不安材料が多く人間の業の深さを感じずる昨今であり教育の府にも大なり小なりの影響を与えているように思われる。しかし学校教育の大河を広くみれば、明治5年学制なりて義務教育出発の源流から流れに流れて110年余踏々として将来に向けて流れを続けている。これに国民が、市民がPTAが善意を働かして支え拡大し発展の底力となつて常に働きかけてくれる。それも人間のなせる業である。こと教育に関しては一貫して教師を敬え親しんで真から子供を托して子供の発展を願い孜々営々としてあらゆる活動に参加を惜まず学校を支えきた人間の善意こそ日本人の強さと偉大さをそこにみることが出来ます。時に誤りもありましようが大河の流れは善意の大河となり、不純分を消化して常に生々発展を続けるのは教育の実相であると思う。そうした流れの一コマを自分自身が荷って同行できる感激を日々味わいながら教育にとりくんでいる毎日でもある。

教師不在は学校運営上の重大問題

市貝町立市貝中学校

永 嶋 寿 夫

「出張が多くてね。」「きょうは5名も出ている。」

こんな会話が、よくかわされる昨今である。教師の資質向上、連絡提携の名のもとに教師の学校不在が年々増加の傾向を辿っている。

昨年、本郡市中学校長会では「教師不在で自習補教の多い学校生活では充実した学習はありえない。」「教師不在こそ学校運営上の重大問題である。」「という認識と合意にたつて、その実態と対策をまとめて郡市内関係団体や行政へも強く訴え県校長研究大会の席上でも大方のご賛同をいただいた。

しかしながら中学校の現状は、さっぱり改善されてはいない。特に中学校では生徒指導上の問題が多発しつつある現在、寒心にたえないものがある。「充実した学習」「充実した生徒指導」のための研修・会議が主客転倒するのではという危惧さえいづく毎日である。

世は行革の時代である。ふくれにふくれた数多くの教育関係の諸団体・組織を再検討して改廃・統合など、その衝にある校長会が先ず手がけるべきではないだろうか。

行政主催、校長個々が関与している中教研・中体連・保健・給食会……などの事業の中で総会と抱き合わせて実施できるものではないか。共催可能な事業はないか、カットできるものはないか(回数減を図る)時期的なバランスはどうか。いっそう内容の充実を指向しつつ、マンネリと縄張り捨てを捨てた勇気と決断がない限り現場の荒廃を招きかねないであろう。

そして校長は何よりも「教師不在は学校運営上の重大問題である。」「に徹した主体的な選択姿勢と「自らが関与する組織、団体が教師不在の要因でもある。」「ことを再確認し、「自縄自縛」を反省すべきであろう。(市貝町立市貝中学校)

第32回全日本中学校長会 和歌山大会参加報告

上三川町立上三川中学校
山崎勝二

去る10月15・16日の2日間、紀州徳川家ゆかりの地として栄え、そして今「太陽と緑と笑顔のまち、和歌山市において「豊かな人間性の育成をめざす中学校教育の実践」というテーマのもとに、第23回全日本中学校長会和歌山大会が開催されました。わが栃木県からは28名参加、景勝の地和歌の浦にある魚又楼に宿泊、2日間大会会場である和歌山県民文化会館までタクシ(所要時間約25分)に分乗出席いたしました。以下紙面の関係で、初日の開会式および全体協議会に重点をおき、その概要をご報告申し上げます。

● 開会式、あいにく文部大臣や文部次官等の出席はなかったが、数多くの来賓を迎え華々しく幕がおとされた。「校内暴力に象徴される中学校教育は、いま思想転換の時であり、今日ほど大きな課題をかかえたことは過去いかなかった。」「教育の批判の多い中にその焦点は中学校に向けられている、校長としてつらい思いであろうが、何んといってもその方向を決めるのは校長である。」「如何なる事態であろうと、その解決の方法を発見できるというところに教育のプロとしての資格があるのではないか。」等々、会長や来賓のあいさつに激励されて全体協議会に入った。

● 全体協議会、会は二人の校長からの提案があったが、まず、全日中研究部長である原島校長より「生徒指導をめぐる諸問題と学校経営」というテーマのもとに、校内暴力等の核心にせまる対応等として、次のようなことが提案された。

1. 生徒の生活意識とモラトリアム傾向

(1) 生徒の悩みの実態から見て、正しい進路指導を推進する必要があるのではないか。

(2) 「早く大人になりたい」と思う生徒が減少

しつつある。このことは、即ち自主性、自律性が乏しく依存的人間が増えつつあるということによって生徒指導と深いかわりを持っていることに注意したい。

2. 人間性豊かな生徒を育てる学校経営の視点、
(1) わからないことが、わかったという成就感・成功感を満たしてやることによって、灰色化した学校がなくなる。教師は1時間、1時間の授業の質を如何にして高めるかについて研修する必要がある。

(2) 徳性の涵養と生活指導、幼児期、小学校時代の徳育の充実が中学生の生徒指導と深いかわりがあることを確かめ、道徳教育について見直しがあつて然るべきであろう。

3. 生徒指導と学校経営

(1) 教師の協力的指導体制の確立について人間関係のあつれき、教育観の相異等から校長として苦慮するところがあるが、ある実践を通して共通理解へ進むという手法の研究を提案したい。

(2) 家庭・地域の教育力の回復については地域の連帯感、一体感というものを、いまほど強く感じることにはない。情報交換、事例研究の積み上げから地域の連帯感を養っていくよう努力したい。

4. 現職教育の充実

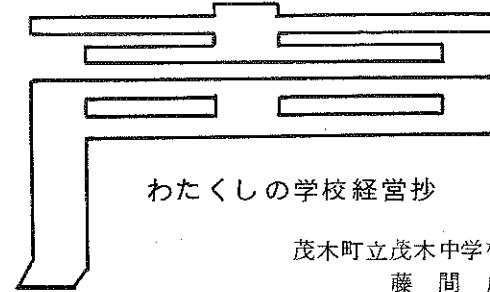
生徒指導は権威だけでは進められない。生徒の心をキャッチし、それとのくみ合わせによって教育にあたるよう努力したい。

● 午後は、八つの分科会がそれぞれ会場を異にし、提案にもとづいて熱心に研究協議が行われた。続いて第二日目は、文部省の福田中学校教育課長より、「新教育課程への取りくみ方・生徒指導の充実・行財政改善・教職員の服装」についての説明を受けた。最後に閉会式、次年度大会開催地を名古屋市に指定、続いて本大会成果を集約して大会宣言を万場一致で可決して大会の幕を閉じた。大会終了後、前文部大臣永井道雄氏の「学校社会をめざして」という演題のもとに記念講演「現在は明治維新と同じように教育の過渡期にある、今後の日本が栄盛の道をたどるか、枯衰の道を歩むか選択の時、校長としてどのようにして世界に役立つ生徒を育成すべきか考え、微力たりとも尽力してほしい」との熱辯に感銘を深くし帰路についた。

小山市校長会の活動状況

小山市立桑中学校
橋 喜光

小山市校長会は、小学校・中学校が一体となって組織され、全体研修と班別研修の2種類に分かれて活動している。主なものは次のとおりである。



わたくしの学校経営抄

茂木町立茂木中学校
藤間 欣二郎

1. 共通理解に努める

共通理解のむずかしさを身にしみて感じながら共通理解を求めてたゆみなく努めるのが日々の学校経営であると考え。認めあい、信じあい、助けあうことによって集団の士気を創造過程にまで高めることが期待される。そのためには管理権を持った校長が教職員全体の意志を対等の関係において受けとめる、教職員の経営参加が必要であろう。

2. 教育目標を見直す

教育目標は教職員の主体的参画のもと、民主的手続きを経て決定されると同時に、教育目標の内容はすぐれて合理的なものでなければならない。また、教育目標は単なるお題目であってはならず、達成されるべきもの、分析され具体化され、生徒自身に具現化されなければならない。そのため構想を作ることが要請される。

3. 教育課程を管理する。

教育課程表、年間指導計画が整備され、それに基づく展開計画や週計画によって適切な学習指導が行なわれる必要がある。教育課程の実施に当っては①教材の精選と構造化 ②思考に即した学習過程の組織化 ③授業実践の記録による反省評価が特に必要であろう。調和と統一ある学校運営のなかで、授業時数が質・量ともに十分確保されるよう配慮する。

4. 生きる意味を問いかける

朝礼訓話も学校行事のあいさつも、校長の生徒に対する言葉は常に「君たちはどう生きるか」という問いかけである。こどもから大人への過渡期に当る青年期は身体と同時に精神の発達する時期である。こころを育てることこそ人間教育であるといえるが、特に青年期における人生観確立の意味は、生涯教育のなかでもっとも認識されて然るべきものといえるだろう。

全体研修

年間5回開催

- ・ 組織づくりと年間活動計画検討
 - 小学校 23校が2グループ
 - 中学校 9校が1グループ
- ・ 学校経営の諸問題について
 - 提案者 3名(各グループ1名)
 - 提案の後、質疑および協議
- ・ 同和教育について
 - 授業参観
 - 研究協議
- ・ 生徒指導について
 - 提案者 3名
 - 講話 (講師による)
- ・ 班別研修のまとめ発表と質疑
 - 本年度のまとめ
 - 来年度の予定

班別研修

年間4回開催

- 研修テーマ 生徒指導の諸問題
 - 教師の構えはどうあればよいか
 - 学習指導の充実
 - 学級づくりの工夫
 - 部活動の促進
 - 保護者の啓発
 - 県外教育調査(9月に実施)

これらの研修を通し、その内容についての成果もさることながら、その研修の間における各校の情報を交換しあう中に緊密な連帯感が醸成されていき、そのことが大きな役割を負っているように思われる。

塩谷地区校長会の研修活動

雑 感

塩谷町立玉生中学校

矢口 龍 雄

塩谷地区中学校長会は、11名で組織され、その研修活動は、小学校長会との合同研修と中学校独自の研修との2本立で実施し留意したことは、地区内の各種機関と団体が課題としている「行事調整」を率先して行い、他団体の啓もうを促さなければならぬ本会として、前年度よりその回数を減じながら、内容の充実を図らなければならないということであった。

そのため、計画立案の段階からじゅうぶんな検討を行ってその策定に努力し、以下にのべる計画のもとに実施が進められているところである。

1. 方針

本会の目的を達成するため、研修活動と対策活動の推進に努力する。

2. 努力目標

- (1) 校長自らが姿勢を正し、ゆとりと充実ある創造的な学校運営に努めよう。
- (2) 小学校との連携を一層密にし、豊かな人間性育成をめざす研修に努めよう。
- (3) 略

3. 研 修

- (1) 指標 創造的で特色ある学校経営の刷新を図り人間性豊かな生徒を育てよう。
- (2) テーマ 豊かな人間性を育てる生徒指導
- (3) 計 画

	月日		司 会 提 案
1	4/4	組織・計画の決定	矢板中
2	6/16	生徒指導上の諸問題	塩 谷 矢 板
3	8/6	県大会提案内容の検討	氏 家 塩 谷
4	10/13	人間形成と学校教育の役割 中央講師招請	小中合同
5	10/27 10/28	優良校視(県外) 静岡方面	(研修係担当)
6	12/11 12/12	各種研究会参加報告 条件整備に関する諸問題	高根沢 喜連川
7	1/16	学校経営上の諸問題	小中合同
8	2/9	生徒指導・今年度の反省	喜連川 高根沢

南那須町立下江川中学校

仲 山 貞 夫

職員や生徒を理解したり、PTA会員と接する場合に根本となるのは人間観であると思います。

これまでに、多くの人間観が説かれていますが私が基本的なものとしているのは、マクレガー(D. McGregor)の「人間は、自分の能力を発揮し自己実現を目指すことを望んでおり、他人に強制されるものでなく、自ら設定した目標に対して努力するものである」という考え方と、マズロー(A. H Maslow)の人間の欲求は、生理的欲求(生命の維持)から始まって、安全の欲求(危険から身を守りたい)、社会的欲求(皆から受入れられたい)へと進み、さらに、自我の欲求(能力を伸ばし認めてもらいたい)、自己達成欲求(能力を発揮したい)という自己実現の欲求へと発展するものであるという考え方であります。

しかし、学校生活において、例えば、体育祭・文化祭・修学旅行・ゆとりの時間活用の農園栽培作業や菊づくり等の諸活動や「愛町の森」への植樹等の社会的行事への参加を通して、職員も生徒も、ある場面では意外性を発揮するものであるということ、人間は、自分で納得しない限り動こうとしないものであることや、人間を変えることは極めて難しいことであるということがわかるにつれて、最近では、上述した人間観に加えて、「人間は、一面的でなく多面的であり、あらゆる性格、いや、反対する性格さえもが、同一人の中に併存するものであること。人間の間には本質的な差はなく、有るのは程度の差であること。また、人間は場面が変われば、そこに新しい姿を示すものである」という考え方をもつようになりました。

職員や生徒を理解し、指導・助言をする場合に「彼は、こういう人間である」と評価して接するのではなく、「彼は、こういう場面ではこういう人間である」というように職員や生徒の一面だけで全体を押し量ることのないよう心掛け、自己啓発とともに、職員や生徒が自己実現を果たせるよう心的・物的条件の整備に努めたいと考えています。